

第12回恵比寿映像祭、第2弾作家・プログラム発表！



THE IMAGINATION OF TIME

令和2（2020）年2月7日（金）～2月23日（日・祝）

《15日間》月曜休館／10:00～20:00 ※最終日は18:00まで

会場 | 東京都写真美術館／日仏会館／ザ・ガーデンルーム／

恵比寿ガーデンプレイス センター広場／地域連携各所 ほか

入場無料

※定員制のプログラムは有料

開催概要 |

恵比寿映像祭は、年に一度、15日間にわたり展示、上映、ライブ・イベント、トーク・セッションなどを複合的に行う映像とアートの国際フェスティバルです。映像分野における創造活動の活性化をめざし、東京都写真美術館全館および地域会場で開催されます。第12回となる今回は、「時間とは何か」という映像が併せ持つ本質について迫ります。展示や上映の作品から、鑑賞者と映像を巡り・楽しみ・考えるプログラム「YEBIZO MEETS」の展開までを通じて、多様な映像表現に触れていきます。

- [名称] 第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2020:
The Imagination of Time
- [会期] 令和2(2020)年2月7日(金)～2月23日(日・祝)《15日間》月曜休館
- [時間] 10:00～20:00 ※最終日は18:00まで
- [会場] 東京都写真美術館/日仏会館/ザ・ガーデンルーム/
恵比寿ガーデンプレイス センター広場/地域連携各所 ほか
- [料金] 入場無料 ※定員制のプログラムは有料
- [主催] 東京都/公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京/
日本経済新聞社
- [共催] サッポロ不動産開発株式会社/公益財団法人日仏会館
- [後援] 駐日ブラジル大使館/在日カナダ大使館/TBS/J-WAVE 81.3FM
- [助成] 大和日英基金
- [協賛] ANA / オランダ王国大使館/ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター/
サッポロビール株式会社
- [協力] ぴあ株式会社/ドゥービー・カンパニー株式会社/株式会社ロボット
- [公式HP] www.yebizo.com

恵比寿映像祭とは |

映像文化の創造と紹介・体感の場としてのフェスティバル

恵比寿映像祭は、映像領域と芸術領域を横断するフェスティバルとして、2008年度(2009年2月)より開催され、今年度で12回目を迎えます。文化都市東京・恵比寿から発信するフェスティバルとして、東京都写真美術館の全フロア、恵比寿ガーデンプレイスおよび地域に広がる文化施設と共に開催しています。映画、アニメーション、実験映像、ドキュメンタリー、現代美術ほか、多様なジャンルの映像芸術表現が一堂に揃います。

この恵比寿映像祭のロゴマークのカッコのロゴが象徴するのは、皆で映像について考えてみよう!という姿勢です。

なお、第12回恵比寿映像祭は、オリンピック・パラリンピックの開催都市東京が展開する、2020年に向けた文化の祭典「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の1つとして実施するものです。

ミッション

- 1 映像文化を紹介・体感する
多くの人々が多様な映像芸術表現に触れる「開かれた」
機会(豊かな感性を育む機能)
- 2 映像文化を創造する
新進作家の発掘・支援(作家の跳躍台としての機能)
- 3 映像文化の楽しさと出会う
フェスティバルを通じて映像文化の楽しさと出会い
ジャンルや地域の垣根を越え交流



第12回恵比寿映像祭 時間を想像する

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2020 The Imagination of Time

時間は、時計の針のように一方向に進んでいるようにみえます。人間にとって当たり前前に存在していると思われていながら、いざ「時間とは何か」と問われたら、こたえるのは容易ではありません。宇宙の起源や生命の働きなどと同様に、現代物理学の世界でも時間はいまだ大きな謎に包まれています。

一方、映像のなかでは、時間は逆行したり、現在と過去や未来がつながったり、人々が、そのなかを自由に行き来することもできます。さらにアートをはじめとする様々な映像表現では、すでに起こった過去の出来事や歴史による集団的記憶をどのように伝え記録し、あるいは予測不可能な未来をいかに語るができるのかという問いのもと、様々な時間のとらえ方がなされています。例えば、超高速カメラは、肉眼ではみることができない瞬間をとらえ、SF（サイエンス・フィクション）映画は近未来の世界や、人間以外の時間を描いてきました。むしろ、私たちは、現存する時間ではなく、映像によって浮き彫りにされる不可視の時間の存在を確かめながら、自らがいる今をとらえようとしているのかもしれない。

第12回恵比寿映像祭では、「時間を想像する」をテーマに、多彩な作品やプログラムをご紹介します。誰にとっても身近であり同時に解き明かされていない時間にかかわる作品をとおして、新しい発見が生まれ、観客との対話や交流を導く機会を作りたいと思います。そして、アートや映像表現から時間を想像することで、動く写真（モーション・ピクチャー）である映像の本質に迫り、あらためて現在をみつめ考察していきます。

第12回恵比寿映像祭ディレクター 田坂博子

「時間を想像する The Imagination of Time」のコンセプト |

総合テーマ「時間を想像する」は、以下のような視点で構成しています。

映像によって時間を記録し、描き、思いめぐらす
時計の針の動きとは異なる「時間を想像する」ことで、今を考えていきます

1 時間を記録する：新しいドキュメンタリー

歴史の継承

過去の出来事や歴史をいかに再現し、語り伝えていくことができるのだろうか。映像によって歴史的事実はどのように記録することができるのか。ドキュメンタリーの新しい可能性を探ります。

ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ《移動の自由》2017



[参考図版]

記憶の再編成

私たちの記憶は、未来の人々からはどのように見えるのか。映像表現は時に、集団的な記憶の再編成にもなりうるのだろうか。語りの実践から生まれる記録のゆくえに問いを投げかけます。

小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち／交代地のうたを編む》2019
Photo: Tomomi Morita



[参考図版]

2 時間を表現する：ポストヒューマン

宇宙や自然、動物など人間以外の存在にとっての時間とは何か。映像はどのように、その経過や見え方、感じ方をあらわすことができるのだろうか。

三原聡一郎《自然の監視、自然の生成》2019 [参考図版]
Courtesy of Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University
Photo: YAMAMOTO Tadasu

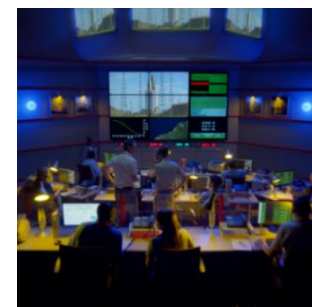


[参考図版]

3 イマジナリータイム（虚時間）

時間は存在するのだろうか。量子力学の虚時間——宇宙の時間への問いは、SFが描く未来に頻繁に描かれてきた。映像のSF的想像力を考えます。

スタン・ダグラス《ドッベルゲンガー》2019
©Stan Douglas Courtesy the artist, Victoria Miro and David Zwirner

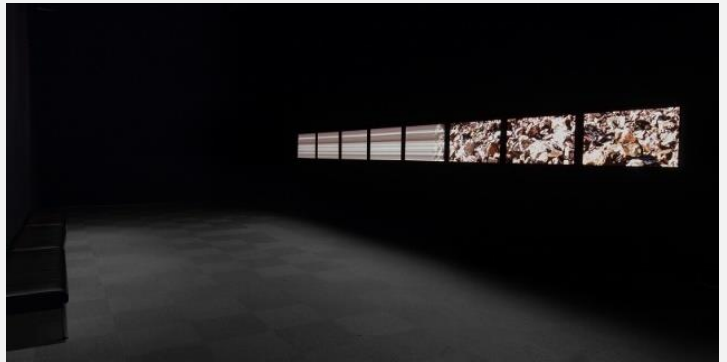


[参考図版]

すでに起こった過去の出来事や歴史の中の集団的記憶を
どのように伝え記録し、あるいは予測不可能な未来を
いかに語るることができるのか——映像の「時間を想像する」

映像から舞台まで幅広く国際的に活躍する「高谷史郎」による新作発表！！

日本を代表するメディアアーティストグループ「ダムタイプ」の活動と並行して、個人の映像作品から舞台作品と幅広い領域で国際的に活躍する高谷史郎が、新作委嘱作品《Toposcan/Tokyo》を発表します。東京都写真美術館収蔵の《Toposcan/Ireland 2013》の東京版を恵比寿映像祭のために制作します。



高谷史郎《Toposcan/Ireland 2013》2013 [参考図版]

360度全方位の映像体験《ハナビリウム》が、恵比寿ガーデンプレイスセンター広場に登場

恵比寿ガーデンプレイスセンター広場のオフサイト展示では、花火の物語を360度全方位から見上げることのできる映像プログラム《ハナビリウム》が屋外ドームに登場。実写映像を投影することで、大迫力の花火が真冬の恵比寿に打ち上がります。



《ハナビリウム》 [参考図版] ©丸玉屋

東京を舞台に、エリアを超えて4つのアートイベントが連携 東京がメディアアートに染まる1カ月！

令和2（2020）年2月は、「アート&メディア」月間！ 恵比寿映像祭がエリアを超えて、3つのメディアイベントとコラボレーションいたします。東京がメディアアートに染まる1カ月。恵比寿映像祭は、「未来の学校祭」、「DIGITAL CHOC」、「MEDIA AMBITION TOKYO」と、開催エリアやイベントの枠組みを超え、連携することで、東京のメディアアートシーンを一層盛りあげていきます。



見どころ |

さまざまな時間の映像体験となる「展示」の、全出品アーティストを発表 木村友紀の日本初公開となる映像インスタレーションほか、新作も多数披露

[新作]

- 高谷史郎（新作委嘱作品）
- 時里充
- 多和田有希
- 三原聡一郎
- シュウゾウ・アヅチ・ガリバー
- 小森はるか+瀬尾夏美

[日本初公開]

- 木村友紀 | 2019年ロサンゼルスで発表した最新の映像インスタレーションを再制作。

[アジア初公開]

- スタン・ダグラス | 第58回ヴェネツィア・ビエンナーレで発表した最新ビデオ・インスタレーションを発表。
- ナム・ファヨン | 第58回ヴェネツィア・ビエンナーレで発表した最新回遊型インスタレーションを発表。

全展示出品作家を発表。総合テーマ「時間を想像する」のもと、さまざまな時間の映像体験をうみだす作品群を紹介します。ナマケモノの時間をとらえたベン・リヴァースの《いま、ついに!》や、時間や空間、イメージと物質についての作品を手掛けてきた木村友紀の日本初公開となる《MPEG-4 H.264 Reflecting in Sizes》は、人間以外の物や動物の時間へと誘います。また、スタン・ダグラスのインスタレーション《ドッペルゲンガー》は、SF的世界への扉を開きます。その他、時間の記録——ドキュメンタリーの新しい可能性を探る作品の数々が発表されます。



木村友紀《MPEG-4 H.264 Reflecting in Sizes》2019
Courtesy of Jenny's Thanks to Taka Ishii Gallery



ベン・リヴァース《いま、ついに!》2019
Courtesy of Kate MacGarry

「上映」プログラムでは、世界が目にする実験映像作家ベン・リヴァースの特集上映に加え、 新進気鋭日本作家や、フィルム上映を含む貴重な現代実験映像を紹介

上映プログラムでは、展示にも出品する、世界的に注目される実験映像作家、ベン・リヴァースの特集上映に加え、タイの期待の女性作家、アノーチャ・スウィーチャーゴーンポンとの共同監督作品（第72回ロカルノ国際映画祭初演）を日本初公開。また、最新作と長編監督デビュー作を上映する遠藤麻衣子や、待望の長編第2作を上映する小田香といった、活躍著しい新進気鋭の日本作家によるプログラムも実現します。そして、ゲスト・プログラマーに、アイリー・ナッシュ（ニューヨーク映画祭）とヘイデン・ゲスト（ハーヴァード・フィルム・アーカイブ）を迎えた、フィルム上映を含む現代実験映像プログラムも充実。恵比寿映像祭でしか見られない、多数のプレミア作品を含む多彩なプログラムを紹介します。



ベン・リヴァース&アノーチャ・スウィーチャーゴーンポン
《クラブ、2562》2019



エキソニモ exonemo ●

《Click and Hold》2018/インスタレーション/作家蔵 [参考図版]

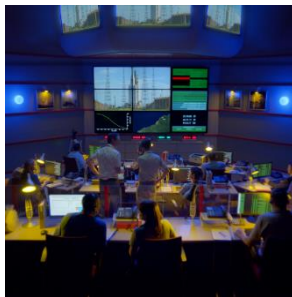
デジタルとアナログを横断し、実験的で機微に富んだプロジェクトを数多く手がけてきたエキソニモ。《Click and Hold》は、デジタルと実空間が複雑に重なることで、すべてが関係するペインティングシリーズ。キャンバスに釘で打ちつけられた、カーソルの矢印が物理的空間とデジタル世界をつなぐ媒介になっている。



minim++ ●

《Tool's Life ~道具の隠れた正体》2001/インタラクティブ・インスタレーション/東京都写真美術館蔵 [参考図版]

真夜中の家の中、月の光に照らされた机の上の道具たち。触れることで、それぞれの影が動き出す。鑑賞者とのインタラクションによって、身の回りの道具に隠された正体があらわになる。



スタン・ダグラス Stan DOUGLAS

《ドッペルゲンガー》2019/2チャンネル・ビデオ・インスタレーション

©Stan Douglas Courtesy the artist, Victoria Miro and David Zwirner

カナダを代表するアーティスト、スタン・ダグラスの最新ビデオ・インスタレーション《ドッペルゲンガー》。理論物理学の「量子テレポーテーション」を参照しながら、宇宙の謎に挑むSF作品。



メルス・ファン・ズトフェン Mels VAN ZUTPHEN ●

《光速》2018/インスタレーション/作家蔵

2011年、素粒子ニュートリノの速度が光より速いという発見が、アインシュタインの相対性理論を覆す大ニュースとして報じられた。結果的に実験上のエラーにより発見には至らなかったこの科学的事実に魅了された作家は、実験が行なわれたニュートリノの軌跡の映像化に挑む。



真鍋博 MANABE Hiroshi ●

《時間》1963/デジタル・プロジェクション (オリジナル: 35ミリフィルム) /作家蔵

1960年代、真鍋が久里洋二、柳原良平と結成した「アニメーション三人の会」では、商業映画とは異なる枠の中で、アニメーションの実験が本格的に行われ作品が発表された。都筑道夫の原案をイメージ化し、高橋悠治が音楽を担当した《時間》では、時計の歯車に刻まれる人間生活が描かれている。



ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ

Nina FISCHER & Maroan EL SANI

《移動の自由》2017/3チャンネル・ビデオ・インスタレーション/作家蔵

ドキュメンタリーとフィクションを横断し、独自の映像世界を築いてきたフィッシャー&エル・ザニ。今回紹介する最新インスタレーションではローマ・オリンピックでアフリカ人初の金メダルを獲得したアベベ・ビキラの軌跡を追う。



時里充 TOKISATO Mitsuru ●

《見た目カウント トレーニング#2》2017/インスタレーション/作家蔵 [参考図版]

モニターの中で行なわれている行為が、モニターの外に設置された電磁カウンターによって数値として視覚化される、《見た目カウント》シリーズの新作を展示、発表する。



マーティン・バース Maarten BAAS

《スウィーパーズ・クロック》2009/シングルチャンネル・ビデオ/作家蔵

毎日当たり前のように見ている時計を、もし人が掃除しながら動かしていたら？人間の行為によって、あらためて時間の意味が浮かび上がる、マーティン・バースのリアルタイム・シリーズの時計。



岩井俊雄 IWAI Toshio ●

《マシュマロスコープ》2001/ミクストメディア/東京都写真美術館蔵

現実の世界をうつした映像が、リアルタイムで編集され、実際とは異なる時間軸で目の前にあらわれる。マシュマロ型のオブジェを通し、時間と空間は、伸び縮みし、歪み、行きつ戻りつを繰り返す。



多和田有希 TAWADA Yuki

《Family Ritual 2》2018/燃やされたインクジェット・プリント、アクリル/作家蔵

Photo: Fuyumi Murata

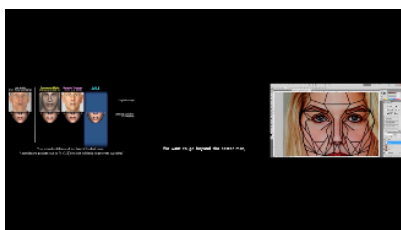
撮影した写真を削り、あるいは燃やすというプロセスを通して、写真表現の境界を拡張しつつける多和田有希。氾濫する写真によるイメージを自らの手の触覚によって、異なる物質へと変容させる。



アンナ・リドラー Anna RIDLER

《モザイク・ウィルス》2018-2019/3チャンネル・ビデオ・インスタレーション/作家蔵

新しいテクノロジーの可能性を探求する活動で注目されているアーティスト、アンナ・リドラー。《モザイク・ウィルス》では、17世紀のオランダで起こったチューリップの球根高騰によるバブルと、現代のビット・コイン・バブルがAIによって結びつけられる。



グアン・シャオ GUAN Xiao

《普通の日》2019/3チャンネル・ビデオ/作家蔵

Courtesy the artist; Kraupa-Tuskany Zeidler, Berlin; and Antenna Space, Shanghai; Commissioned by Tai Kwun Contemporary, 2019.

インターネットによって、人々が受け取る情報のイメージはどのように変わったのか。インターネット上のファウンド・イメージや既製のプロダクトを用いたレディメイド作品を発表してきた中国気鋭のアーティスト、グアン・シャオの最新インスタレーション。



三原聡一郎 MIHARA Soichiro

出品作品《8分17秒》2020/インスタレーション/作家蔵

《自然の監視、自然の生成》2019/インスタレーション/作家蔵
[参考図版]

Courtesy of Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University Photo: YAMAMOTO Tadasu

メディアテクノロジーをもちいながら、自然、社会をとりまく世界の現象を可視化する芸術作品の実践を精力的に行なってきた三原聡一郎。恵比寿映像祭のテーマに挑む最新作を発表。



シュウゾウ・アツチ・ガリバー Shuzo AZUCHI Gulliver

《De-time #30》1985/黒板にチョーク、プレキシガラス/作家蔵
[参考図版]

自らの身体への問いを出発点として、幅広い作品を制作してきたシュウゾウ・アツチ・ガリバー。量子論と身体、コンセプチュアルな方法論で時空の謎に問いをなげかける。



木村友紀 KIMURA Yuki ●

《MPEG-4 H.264 Reflecting in Sizes》2019/インスタレーション
Courtesy of Jenny's Thanks to Taka Ishii Gallery

時間や空間、イメージと物質について、写真や映像、立体などのさまざまなメディアを用いたインスタレーションを手がける、ベルリン在住のアーティスト・木村友紀。2019年ロサンゼルスで発表した最新のインスタレーションを再制作する。

展示 | 東京都写真美術館 3F・2F・B1F展示室



ベン・リヴァース Ben RIVERS

《いま、ついに！》2019/シングルチャンネル・ビデオ・インスタレーション/作家蔵

Courtesy of Kate MacGarry

「スローシネマ」を代表する実験映像作家ベン・リヴァースがとらえたナマケモノの時間。16ミリフィルムで撮影された40分間に及ぶ壮大な映像は、ほとんどの時間、木にぶら下がるナマケモノを映しだす。白黒から三色に分解されたカラーの映像に切り替わる後半、「時間はゆっくりと流れる……」という歌声と共に、カメラはナマケモノの視線へと変わる。



ナム・ファヨン NAM Hwayeon

《半島の舞姫》2019/マルチ・チャンネル・インスタレーション/作家蔵

Photo: GIM IKHYUN ©Hwayeon Nam

2019年ヴェネツィア・ビエンナーレ韓国館代表の一人であり、国際的に活躍するナム・ファヨン。第二次世界大戦前から戦中にかけて日本や中国をはじめ各国で活躍し、西洋と東洋両方の舞踊史において伝説的な存在となった崔承喜（チェスンヒ）に迫った、最新回遊型インスタレーション。



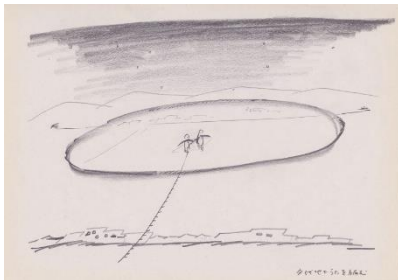
グラダ・キロンバ Grada KILOMBA

《イリュージョンズ（幻想）第2章—オイディプス》2018/2チャンネル・ビデオ・インスタレーション/作家蔵

Installation View at Goodman Gallery, Cape Town, 2018,

Courtesy of Goodman Gallery

多様なメディアをとおして、歴史を再構築し、新しい物語の可能性を探求してきたキロンバ。ギリシャ悲劇「オイディプス」の西洋中心的な文脈を、周縁的な視点から、映像やパフォーマンス、テキストなどをとおして語り直す。



小森はるか+瀬尾夏美 KOMORI Haruka + SEO Natsumi

出品作品《二重のまち/四つの旅のうた》2020/インスタレーション/作家蔵

瀬尾夏美《交代地のうたを編む》2019/ドローイング/作家蔵

[参考図版]

東日本大震災をきっかけに東北を拠点として継続的に活動を行う小森はるか+瀬尾夏美。2031年の未来をみつめながら、震災以降の時間に向き合う新作《二重のまち/四つの旅のうた》を上映とあわせて紹介。

上映 | 東京都写真美術館 1Fホール



【JP】

1 ベン・リヴァース&アノーチャ・スウィーチャーゴーンポン 初共同監督映画《クラビ、2562》——時間・場所・記憶が交錯する

■ベン・リヴァース&アノーチャ・スウィーチャーゴーンポン《クラビ、2562》2019/93分/タイ語、英語（日本語・英語字幕付）
最重要実験映像作家リヴァースと、ポスト・アピチャッポンとも期待されるタイ女性作家スウィーチャーゴーンポンによる共同制作。2562はタイで用いられる仏暦で西暦2019年を示す。タイ南部のリゾート地としても人気の町クラビで、先史時代、近代、現代が交わる瞬間が描かれる。



【JP】

2 ベン・リヴァース特集——異次元へのトラヴェローグ

- 《シングス》2014/21分13秒/英語（日本語字幕付）
- 《ザ・シェイプ・オブ・シングス》2016/2分/英語（日本語字幕付）
- 《ゴースト・ストラータ》2019/45分/英語（日本語字幕付）
Courtesy of Ben Rivers and LUX, London.

展示へも出品するリヴァースが、「時間」について映像が何を明らかにできるのか丁寧かつユーモラスに迫る作品群を紹介。四季、古代の美術品、地層などを映し、《クラビ、2562》とも通じるフッテージを用いながら、一直線でない時間または次元について思いを巡らせる。



3 小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち/交代地のうたを編む》 ——民話の誕生に立ち会う

- 小森はるか+瀬尾夏美《二重のまち/交代地のうたを編む》
2019/79分/日本語（英語字幕付）
Photo: Tomomi Morita

東日本大震災を経て生まれる新たな民話の種として、2031年の岩手県陸前高田市を舞台に瀬尾が描いた物語『二重のまち』。2018年の陸前高田へ赴いた旅人たちがその物語の朗読を試みるなかでおこなう「発話」を小森が映像にとらえた<継承のはじまりの場>の記録。



4 小森はるか《空に聞く》——継承と表現

- 小森はるか《空に聞く》2018/73分/日本語（英語字幕付）
愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品
陸前高田災害FMでラジオ・パーソナリティーを務めた阿部裕美を追ったドキュメンタリー。小森の活動の特異性でもある「他者の話に耳を傾ける」というテーマを芯として、かつ映像作家としての才覚が際立つ、《息の跡》（2016）と平行して制作された記録表現。

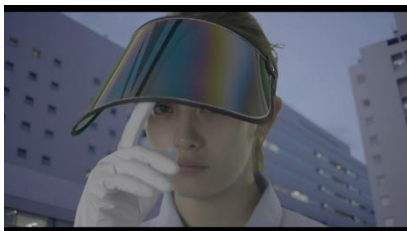
上映 | 東京都写真美術館 1Fホール



5 小田香《セノーテ》——記憶から新たに立ち上がる風景

■小田香《セノーテ》2019/75分/マヤ語・スペイン語（日本語・英語字幕付）

愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品
メキシコ・ユカタン半島に点在する天然の泉セノーテ。作家自ら潜水して撮影した映像と、現在周辺で暮らす人たちを映し出し、その土地の集団的記憶を立ち上げようとする試み。《鉦 ARAGANE》に続く待望の長編第2作。



【AP】

6 遠藤麻衣子特集《TOKYO TELEPATH 2020》 ——東京についての新しいSF映画

■遠藤麻衣子《TOKYO TELEPATH 2020》2020/49分/日本語（英語字幕付）

©A FOOL

強烈な映像と音響を組み合わせ、独自の寓話的世界を作品化してきた気鋭の映像作家・遠藤麻衣子の最新作。2020年オリンピック・パラリンピックを控えた東京。何者かからのテレパシーを受け取る少女を主人公に、2018年東京各地で敢行された撮影で激しく移り変わる風景を画に残しながら、未知の東京が描かれていく。

7 遠藤麻衣子特集《KUICHISAN》 ——幻想記録映画 [35ミリフィルム上映]

■遠藤麻衣子《KUICHISAN》2011/76分/日本語、英語（英語字幕付）

©A FOOL

ニューヨークで主に音楽活動をしていた遠藤が、沖縄を舞台に撮り上げた、日米合作の長編監督デビュー作。映画は米兵が行き交う沖縄のとある町に暮らす少年の姿を島の風景とともに記録し、35ミリフィルムの白黒とカラーの色彩で幻想的に映し出す。

上映 | 東京都写真美術館 1Fホール



8 アナ・ヴァス特集——未来の祖先へ

【アイリー・ナッシュ（ニューヨーク映画祭）・セレクション①】

- 《石器時代》2013／29分／ポルトガル語（日本語・英語字幕付）
- 《オクシデント（西洋）》2014／15分
- 《陸が見えた！》2016／13分／ポルトガル語（日本語・英語字幕付）
- 《アメリカ：アロウズ湾》2016／9分／ポルトガル語（日本語・英語字幕付）
- 《アトミック・ガーデン》2018／8分

【ゲスト・プログラマー：アイリー・ナッシュ [イメージズ・フェスティバル、ニューヨーク映画祭]】

ブラジル出身の実験映像作家アナ・ヴァス特集。作家自身の場所の経験に基づく感覚をとおして、土地に付随する複雑な歴史を映像へと昇華し、意欲的にその活動領域を拡張し続けている作家。福島県で撮影された《アトミック・ガーデン》も上映する。



【JP】

9 再生される現在——現代映像短編集

【アイリー・ナッシュ（ニューヨーク映画祭）・セレクション②】

- メリエム・ベナーニ 《パーティー・オン・ザ・キャップス》2018／25分28秒／アラビア語モロッコ方言（日本語・英語字幕付）
- ダイアン・セヴリン・グエン 《ティラント・スター》2019／16分／ベトナム語（日本語・英語字幕付）
- ケヴィン・ジェローム・エヴァーソン&クロウドレナ N. ハロルド 《ブラック・バス・ストップ》2019／9分25秒／英語（日本語字幕付）
- ベン・ラッセル 《カラー・ブラインド》2019／30分／フランス語、マルキーズ語、英語、ドイツ語（日本語・英語字幕付）

【ゲスト・プログラマー：アイリー・ナッシュ [イメージズ・フェスティバル、ニューヨーク映画祭]】

世界各地で上映企画を実現する気鋭プログラマー、ナッシュによる実験映像最先端の作品群。それぞれの作品に固有の場所性を想像することで過去と現在が共存する可能性を探る。新進作家から世界で高い評価を受ける最重要作家までを体感できるプログラム。

上映 | 東京都写真美術館 1Fホール



【JP】

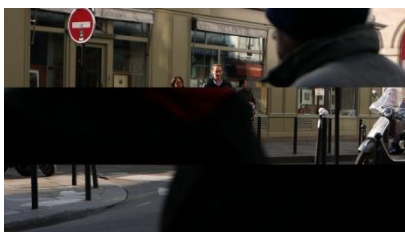
10 ファントム・ヒストリー —— 幻の映像史

【ヘイデン・ゲスト（ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ）・セレクション①】

- アーニー・ゲア《フォトグラフィック・ファントムズ》2014／26分
- パオロ・ギオリ《アノニマトグラフィ》1972／26分
- シルヴィア・シェーデルバウアー《メモリーズ》2004／19分／英語（日本語字幕付）

【リンク：ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ／ゲスト・プログラマー：ヘイデン・ゲスト】

家族写真をアニメーションへと映像化することは、静止画に命を与える行為である。個人的記録写真をもとに制作された3作品には、歴史上は見えてこない親密な物語が浮かび上がる。ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ所蔵の《アノニマトグラフィ》は16ミリフィルムで上映予定。



【JP】

11 アーニー・ゲア新作集 —— 時間における場所

【ヘイデン・ゲスト（ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ）・セレクション②】

- 《パリの日曜日》2016／19分
- 《コンストラクション・サイト》2018／40分

【リンク：ハーヴァード・フィルム・アーカイヴ／ゲスト・プログラマー：ヘイデン・ゲスト】

1960年代よりアメリカ構造映画のパイオニアとして、時間の視覚的受容の可能性と限界に挑み続けてきたアーニー・ゲア。日本で初公開となる最新のデジタル作品を紹介。町やストリートの風景を分割し、速度を変容させ、人間の目では知覚できない動きを映像化する。

上映 | 東京都写真美術館 1Fホール



12 時間を想像するアニメーション——DigiCon6 ASIA

- 松島友恵 《ほぼ空洞になった都市》 2019／3分2秒
- しばたかひろ 《何度でも忘れよう》 2019／10分27秒／日本語・英語字幕付
- アリーフ・クイール・アーリム 《アニーと奇妙な時間》 2019／11分8秒／インドネシア語
- リュウ・マオニン 《僕と磁石と大切な友達》 2019／13分22秒／中国語（日本語・英語字幕付）
- 野中晶史 《めかくれ》 2019／5分30秒／日本語（英語字幕付）
- アミール・フーシャン・モイーン 《Am I a wolf?》 2018／8分15秒
- パク・ヨン 《Another》 2018／8分／韓国語（日本語・英語字幕付）
- トミー・ウー・チー・チョン（ポイント・ファイヴ・クリエイションズ） 《死後の世界》 2019／14分1秒／中国語（日本語・英語字幕付）
- 山口真依 《その先の旅路》 2019／3分52秒
- 油原和記 《MOWB》 2019／13分43秒

【リンク：DigiCon6 ASIA／ゲスト・プログラマー：山田亜樹】

次世代を担う映像クリエイターの発掘・育成を目的としてスタートしたアジア最大規模のショートムービーの映像祭21st DigiCon6 ASIA（TBS主催）から特別プログラム。「時間」をテーマに6つの国から10の作品を厳選。

オフサイト展示 | 恵比寿ガーデンプレイス センター広場



ハナビリウム
HANABIRIUM

《ハナビリウム》 [参考図版]
©丸玉屋



《ハナビリウム》

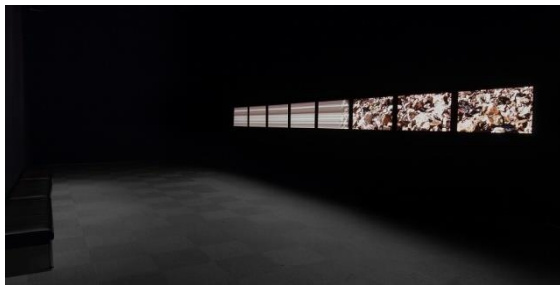
360度全方位の映像体験

日本の夏の風物詩である花火を、季節を超えて、まるで星空を見上げるように鑑賞する。江戸時代から400年以上をかけて積み重ねられてきた花火の歴史と技術を伝える、花火界初のフルドーム教育映像作品。主人公ヒバナを軸に、CGアニメーションと実写映像によって、花火の物語が紐解かれる。第12回恵比寿映像祭では、プラネタリウム用に制作されたハナビリウムを、屋外ドームで特別上映する。日本の代表的な打ち上げ花火のみならず、全天周映像用に設計された360度全方位から5,000発が打ちあがる最先端の演出花火 <hanabi-rium360@>の実写は、保安上の理由から、花火師以外は決して入ることができない「花火の真下」からの視点をとらえ、全く新しい映像体験を可能にする。時代を経て生まれた命の火が一瞬を刻む、花火の物語にぜひ耳をかたむけてほしい。

「ハナビリウム」制作チーム

©丸玉屋

展示 | 日仏会館ギャラリー



高谷史郎 《Toposcan/Ireland 2013》2013/
東京都写真美術館蔵 [参考図版]

高谷史郎 新作委嘱作品 《Toposcan/Tokyo》

日本を代表するメディアアーティストグループ「ダムタイプ」のメンバーとして活躍し、様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作と並行して、独自の表現方法を追及してきた高谷史郎。常に芸術と技術の新しい実験を試み、美しさと同時に、先鋭的なアイデアで世界的に注目される作品を発表してきた。第12回恵比寿映像祭では、東京都写真美術館収蔵の《Toposcan/Ireland 2013》の東京版を新作委嘱作品として制作し、日仏会館ギャラリーで公開する。



高谷史郎

1963年奈良県生まれ、京都在住。1984年から「ダムタイプ」に参加。ダムタイプの活動と並行して1998年より個人での制作を開始。音楽家坂本龍一氏や霧の彫刻家中谷芙二子氏等との数々のコラボレーションをはじめ、個人の映像作品から、舞台作品と幅広い領域で国際的に活躍している。平成26年度 芸術選奨メディア芸術部門 文部科学大臣賞受賞。

フェスティバル連携

2月は、「アート&メディア」月間！映像祭がエリアを超えて、3つのメディアイベントとコラボレーションいたします。東京がメディアアートに染まる1カ月。

「恵比寿映像祭」※1は、「未来の学校祭」※2、「DIGITAL CHOC」※3、「MEDIA AMBITION TOKYO」※4と、開催エリアやイベントの枠組みを超え、連携することで、東京のメディアアートシーンを一層盛りあげていきます。

令和2（2020）年2月7日（金）～3月14日（土）〔予定〕の期間中、コラボレーションプログラムやイベントオーガナイザーを一堂に会したトークイベント、各イベントを巡るハッシュタグキャンペーン（#ARTANDMEDIA_TOKYO）などを実施します。



	2月	3月
恵比寿映像祭 (恵比寿)	令和2年2月7日(金)～2月23日(日・祝)	
未来の学校祭 (六本木)	令和2年2月20日(木)～2月24日(月・振休)	
DIGITAL CHOC (飯田橋、渋谷、六本木、ほか)	令和2年2月20日(木)～3月8日(日)	
MEDIA AMBITION TOKYO (渋谷、六本木、上野、ほか)	令和2年2月27日(木)～3月8日(日)、14日(土)〔予定〕	

(各事業詳細)

※1「恵比寿映像祭」

「皆で映像について考えてみよう」という姿勢のもと開催されている映像とアートの国際フェスティバル。映画、アニメーション、実験映像、ドキュメンタリー、現代美術ほか、多様なジャンルの映像芸術表現が一堂に揃います。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館・アーツカウンシル東京、日本経済新聞社
会場：東京都写真美術館、日仏会館、ザ・ガーデンルーム、恵比寿ガーデンプレイス センター広場、地域連携各所ほか
会期：令和2年2月7日（金）～2月23日（日・祝）（2月10日（月）、2月17日（月）休館）

※2「未来の学校祭」

東京ミッドタウンと、オーストリアに拠点を置く世界的クリエイティブ機関「アルスエレクトロニカ」が協働した取り組み。アートとテクノロジーを通じて、イベント参加者とともに未来の社会を考える新しいお祭りです。

主催：東京ミッドタウン
特別協力：アルスエレクトロニカ
会場：東京ミッドタウン
会期：令和2年2月20日（木）～2月24日（月・振休）

※3「DIGITAL CHOC」

メディアアートからビデオゲーム、アニメーション映画、電子音楽まで、新しいメディアの影響を受けた様々なジャンルの創造性、そして日仏の連携について、幅広く紹介するフェスティバル。

主催：アンスティチュ・フランセ日本（在日フランス大使館文化部／フランス政府公式文化機関）
会場：アンスティチュ・フランセ東京、六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、ゲーテ・インスティトゥート東京、渋谷WWWほか
会期：令和2年2月20日（木）～3月8日（日）

※4「MEDIA AMBITION TOKYO」

MEDIA AMBITION TOKYO [MAT] は、テクノロジーアートを実験的なアプローチで都市実装するリアルショーケースです。期間中、都内各所を舞台に最先端のアートや映像、音楽、パフォーマンス、トークショーを展開します。

主催：一般社団法人 Media Ambition Tokyo
会場：渋谷スクランブルスクエアQWS、六本木ヒルズ、上野公園ほか都内十数カ所予定
会期：令和2年2月27日（木）～3月8日（日）、14日（土）〔予定〕

【恵比寿映像祭に関するお問合せ】

※ 報道・媒体関係者様のお問合せに限らせていただきます。

恵比寿映像祭担当（東京都写真美術館）：柳生（やぎゅう）、印牧（いんまき）
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話：03-3280-0076 / ファクス：03-3280-0033 / E-mail：yebizo_press@topmuseum.jp

【プレスリリース/広報用画像/ご取材に関するお問合せ】

恵比寿映像祭プレスコンタクト担当

【展示など上映以外】 TAIRA MASAKO PRESS OFFICE：平（たいら）
電話：090-1149-1111 / ファクス：03-3468-8367 / E-mail: info@tmpress.jp

【上映】プレイタイム：斉藤（さいとう）
電話：080-3732-6809 / ファクス：03-6781-3101 / E-mail: yosaito9@gmail.com

※ 本リリース内で使用している写真を広報用画像としてご用意しております。
ご希望のプレスの方は、①ご希望画像の作品名 ②貴媒体名 ③掲載予定時期
を表記のうえ、上記のプレス担当者までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※ 2020年1月に第3弾の作家・プログラムの詳細決定後、3次リリースを発表予定です。

【第12回恵比寿映像祭 公式ウェブサイト】

第12回恵比寿映像祭「時間を想像する」の詳細は公式ウェブサイトをご覧ください。

www.yebizo.com

※ 出品作品および出品作家など内容については変更する場合があります。予めご了承ください。